

日本東洋心身医学研究会EBM作業チーム調査報告

心身症およびストレス関連疾患に対する
漢方治療のエビデンス

8) 一次性頭痛

知場奈津子 岡 孝和 辻 貞俊*

はじめに

現在、頭痛の分類として国際頭痛学会による International Classification of Headache Disorder 2nd Edition (国際頭痛分類第2版, ICHD-II) が広く用いられている。ICHD-II では頭痛を一次性頭痛, 二次性頭痛, 頭部神経痛ほかの3つに分類している。

一次性頭痛は6カ月以上同様のパターンの続く慢性の経過をとる頭痛であり, 片頭痛, 緊張型頭痛, 群発頭痛などが含まれる。精神疾患に伴う頭痛は二次性頭痛に分類されている。

今回は一次性頭痛のうち, 片頭痛に絞って検索を行った。片頭痛は前兆のあるもの, 前兆のないものに大きく分けられ, 前兆のある片頭痛は頭痛に先行ないし随伴する局所神経症状を特徴とする頭痛である。精神的ストレスが片頭痛の発症要因の1つであること, 片頭痛患者では comorbidity としてうつ病やパニック障害を併存していることが多いことなどから, 片頭痛は心身医学的治療の必要な疾患である。

1. 調査方法

医中誌Web, ツムラ漢方スクエアを用いて, 片頭痛×漢方, もしくは呉茱萸湯, PubMedを用いて, headache×Kampo or goshuyutoのキーワードで1986年以降の漢方文献(日本語論文, 英語論文)を検索した。漢方方剤による臨

床研究の全体を把握する目的で, 対象論文には学術誌のみならず学会や研究会記録集の一部も含めた。1986年以降の新製剤基準下の漢方エキス製剤を用いたものを対象とした。原則として10症例以上を扱った報告を対象としたが, (5) 難治例に対する効果に関する検討に関しては, 症例報告を含んで検討した。

2. 結 果

(1) 現況

2007年12月現在で, 片頭痛に対する漢方治療の有用性を検討した報告には二重盲検法で検討した研究が1論文¹⁾あった。10症例以上の症例で有効性を検討した症例集積研究は2論文^{2,3)}あった。

(2) 有用性

Odaguchiら¹⁾は慢性頭痛患者(緊張型頭痛と片頭痛を含む)に対して呉茱萸湯を経口投与し, それに反応したレスポンドーを選別し, レスポンドーのみを次のstageに進ませ, レスポンドー限定の二重盲検・プラセボ対照比較試験を行った。呉茱萸湯あるいはプラセボを12週間投与したところ, 呉茱萸湯群ではプラセボ群に比して有意に頭痛発作日数が減少したと報告した。

(3) QOLに対する効果

片頭痛患者ではQOLが著しく損なわれるが, 漢方方剤が片頭痛患者のQOLに及ぼす効果を直接検討した報告はない。ただし, Odaguchiら¹⁾は呉茱萸湯レスポンドー群では, 呉茱萸湯

* 産業医科大学神経内科学(心療内科部門) [知場奈津子 〒807-8555 福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1] Natsuko Chiba, Division of Psychosomatic Medicine, Department of Neurology, University of Occupational and Environmental Health, Iseigaoka 1-1, Yahata-Nishi, Kitakyushu, Fukuoka 807-8555, Japan

<表1> 片頭痛の予防における呉茱萸湯の位置づけ

片頭痛：呉茱萸湯>プラセボ 呉茱萸湯>塩酸ロメリジン

はプラセボ群と比較して冷え、月経痛、肩こりを改善したと報告している。

(4) 西洋薬との比較

丸山ら²⁾は呉茱萸湯と塩酸ロメリジンのオープン・クロスオーバー試験を行い、呉茱萸湯は塩酸ロメリジンに比べて、頭痛発作の頻度、程度、トリプタン内服錠数、トリプタン内服から発作消失までの時間を有意に減少させたと報告している。

(5) 難治例に対する効果

トリプタン製剤に対して治療抵抗性の、前兆のある片頭痛症例に呉茱萸湯が有効であったとの報告がある⁴⁾。

(6) 西洋薬との併用に関する検討

片頭痛に対してトリプタン製剤で治療していた症例で、月に4回以上の発作を認めた症例に対し呉茱萸湯を併用した。頭痛強度、発作の回数、トリプタン製剤の服用回数が減少したとの報告がある³⁾。

(7) 証の検討

Odaguchiら⁵⁾は呉茱萸湯のレスポonder群とノンレスポonder群を判別する徴候として、他覚的足冷、胃内停水、胸脇苦満、臍傍圧痛、腹部動悸の5つの徴候が有効であったと報告している。さらにこの論文では、従来の呉茱萸湯証に臍傍圧痛、腹部動悸という徴候を加えることで、さらに診断の正確度が増す可能性を示唆している。

(8) 心身医学的検討

現時点で漢方方剤のストレスによる発症、増

悪に対する効果、併存する精神疾患に対する効果など心身医学的検討を行った論文の報告はない。

(9) 推奨度

呉茱萸湯は片頭痛の予防薬として有用と考えられる。日本頭痛学会の慢性頭痛の診療ガイドライン⁶⁾では呉茱萸湯はグレードBの推奨度が与えられている。

(10) 今後の問題点、検討課題

Odaguchiらの報告では、片頭痛、緊張型頭痛を区別せず有効性を検討しているため、今後は各頭痛に対する有効性を検討する必要がある。また、片頭痛は気分障害、不安障害を合併し、それらの併存症が頭痛を修飾していることが多い。今後、呉茱萸湯の併存症に対する有効性も調べる必要がある。うつ病や身体表現性障害などの精神疾患による頭痛に関する検討がない。

【文 献】

- 1) Odaguchi, H.: The efficacy of goshuyuto, a typical Kampo (Japanese herbal medicine) formula, in preventing episode of headache. *Curr. Med. Res. Opin.* 22:1587-1597, 2006
- 2) 丸山哲弘: 片頭痛予防における呉茱萸湯の有効性に関する研究—塩酸ロメリジンとのオープン・クロスオーバー試験—. *痛みと漢方* 16:30-38, 2006
- 3) 前田浩治: 呉茱萸湯による片頭痛の予防効果—トリプタン製剤との併用治療—. *痛みと漢方* 16:70-72, 2006
- 4) 西田博昭: 難治性の片頭痛に対し呉茱萸湯が著効した1症例. *痛みと漢方* 16:89-92, 2006
- 5) Odaguchi, H.: Statistical Analysis of the findings in patients responded to goshuyuto. *Kampo Med.* 58:1099-1105, 2007
- 6) 日本頭痛学会: 慢性頭痛の診療ガイドライン. 医学書院, 東京, 2006